

遠賀町

町制施行記念

町勢要覽

1964.4.1



発刊に当って

本町は昭和4年4月1日、旧浅木、島門の両村が合併して遠賀村となり、本年は恰度その満35周年の記念の年に当るのであります。

この間における本町の産業、経済、文化、交通等の変遷と、北九州市周辺農村としての都市化しつつある現象に伴い、従来の純農村としての形態様相は、年と共に漸次変貌しつつある現状に鑑み、剩え地域住民の町制施行に対する要望も高まり、ここに遠賀の郷、今後の躍進を図るために、昭和39年4月1日を期して町制を施行することにいたしました。

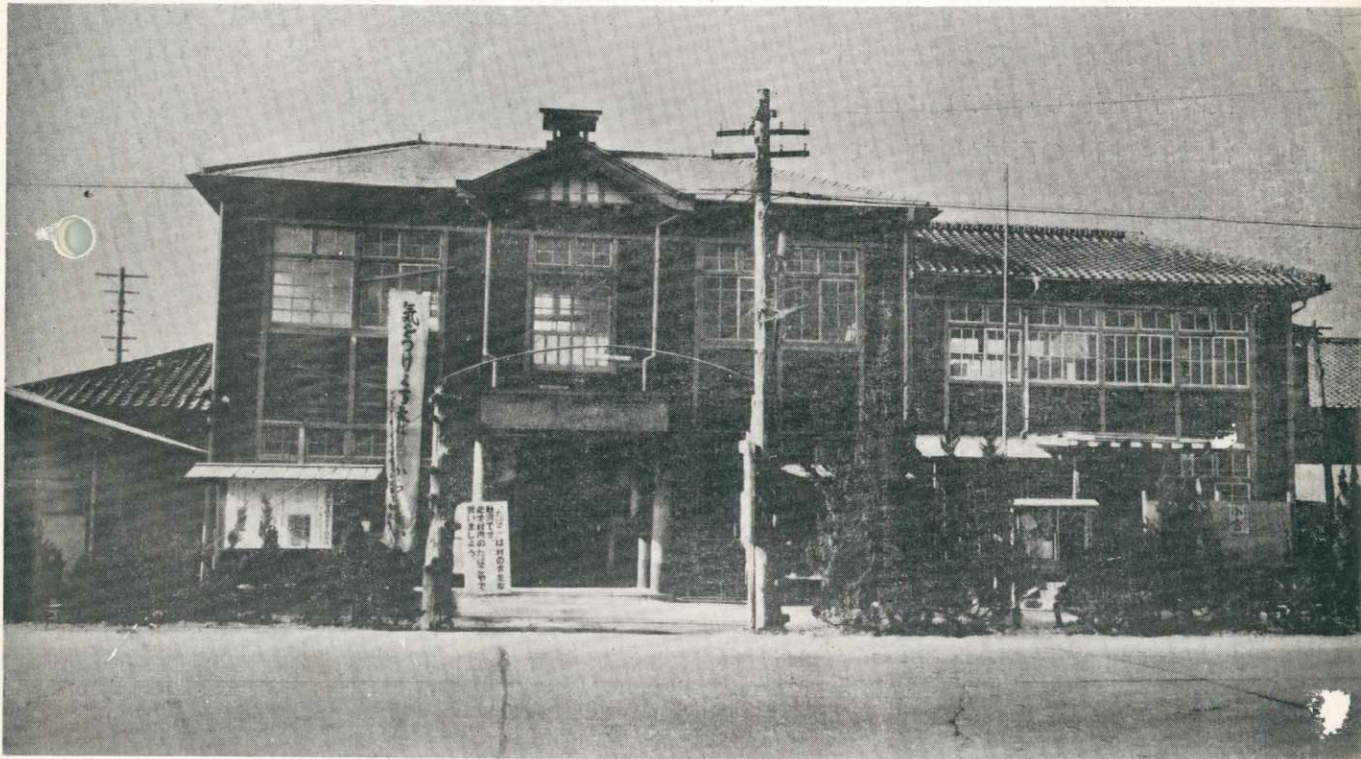
つきましては本町の永い歴史と伝統を回顧し、現況を記録して町制施行の記念誌とし、之が本町将来の躍進発展に資することになれば甚だ幸甚と存じます。

昭和39年4月1日

遠賀町長 小 川 登 一 郎

目 次

沿 革	2	教 育	27
人 口	6	保 健 衛 生	30
行 政	10	社 会 福 祉	34
財 政	17	土 木	36
産 業	22	昔 を 偲 ぶ	38
交通・通信・文化	26		



役 場 全 景

沿 革

鹿児島本線で折尾から博多に向うと、やがて遠賀川を渡り、広漠たる平野が開ける。ここが遠賀町である。鹿児島本線は町を二分して通り抜る。

遠賀町は、遠賀川下流の左岸に沿って開ける東西5km南北9km面積22.41km²の平坦な町である。遠賀川がもたらす土砂の堆積が、この辺りの土壌を形づくったのである。考古学の教えるところによると、周辺に遠賀川式土器と名づけられる土器を持つ文化圏があったという。町のあちらこちらに津、沖、嶋、渡、崎などの、水と海につながる地名を残しているのは、一面に湾か潟をなして漁撈に都合のよかったことを思わせる。今でも土を掘れば貝がらが出るし、耕地をはげば深いソーダ層が表はれる。

この遠賀町は、古えは嶋門の駅跡であり、延喜式(927)にも記されている通り太宰府より京にのぼるには、宗像郡鐘崎から此の嶋門を経て今の上津役に向っていたのである。このために駅馬23疋をおいていたとある。奈良朝時代の大宮人の姿を遠賀川に思い泛べることは、遠賀町古えを飾る誇りである。

中世黒田長政の時、元和年中に開拓して生まれたのが今古賀であり、寛永5年、黒田忠之が命じて遠賀川を堀り水路を定めてからは、水田の開発と共に漸く耕地も増加の一途を辿り、我々の祖先の移住もはげしくなり、今日の遠賀町の姿が生まれたのである。

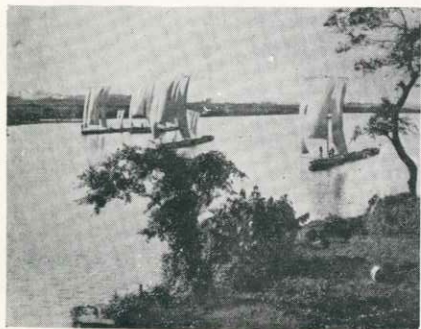
維新後町村制の実施により、明治22年に北部6ヶ村を以て嶋門村を、南部4ヶ村を以て浅木村を編成したが、更に昭和4年4月土木水利等に密接な関係を有するのみならず、人情風俗も同一の両村が合併して遠賀村となったのである。

純農としての牧歌的な遠賀村がしばらくは続いたが、主要産業たる農業も欧州大戦前後から活潑となった北九州工業地帯の影響を受け、農業人口は漸減し今では通勤者は1,000人を越え、専業農家は減少の道を辿っている。このときに当り農業構造改善事業を行うことは、今後の農業の安定のため深い意義を有するものである。

又大正年間から起った炭坑事業もエネルギー革命の波は防げず、昭和37年2月三菱新入鞍手坑の閉山によって遠賀町から姿を消した。残された失業者の厚生と跡地の振興につい

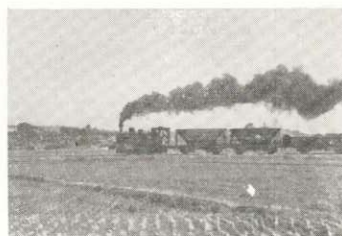
ては、緊急失業者就労対策事業を起しての道路建設、産炭地振興事業団による4万坪の整理と企業の誘致が計画されるなど新しい息吹が既に始まっている。村独自による企業誘致である、新西工業K.K.の操業開始も目前に控えるまでになった。

これからの遠賀町は健全な農業と共に、大都市近郊としての道を歩むことを併せ考えると、将来の飛躍的發展を期してここに35年に亘る永い遠賀村の幕を終じることとなった。



往時の遠賀川風景

遠賀町の重要事績年表

[illegible]

当時の芦屋軽便鉄道



老良小学校
現在は老良公民分
館として活用され
ている

年 月	事 績	年 月	事 績
♫ 12年 2 島門村公設消防組織  島門村公設消防組織される (T, 12. 2)		♫ 10年 虫生津に金丸鋳業所開鋳 ♫ 大降雨のため稲苗腐蝕し、宮崎、鹿児島より苗移入 ♫ 11年 農林省の経済更正指定を受け、全村学校を開校 ♫ 13年 4 合村10周年記念式を行う ♫ 13年 5 農村振興道路建設 ♫ 14年 大旱魃あり ♫ 15年 金丸鋳業所にかわつて東邦炭坑が経営 ♫ 16年 4 国民学校令により、島門、浅木両小学校を国民学校と改称 ♫ 16年 大降雨、役場庁舎の基礎を上げる ♫ 遠賀村農会、役場横から現在位置に移転 ♫ 18年 遠賀村国民健康保険組合を設立 ♫ 18年12 島門校舎1棟4教室に陸軍部隊駐留 ♫ 19年 農会並びに産業組合をもつて農業会を設立 ♫ 東邦炭坑、三菱鋳業株式会社に吸収される ♫ 20年 国民健康保険組合解散 ♫ 21年 6 遠賀川駅にRTO開設 ♫ 22年 3 芦屋線開通(占領軍用) ♫ 22年 4 遠賀中学校開校(浅木校に3学級、島門校に4学級を分散設置児童数296名) ♫ 22年 4 浅木島門両校の高等科を廃し、小学校と改称 ♫ 22年 5 遠賀中学校が県より週5日制実験学校の指定を受ける ♫ 22年12 遠賀川駅全面改築	
♫ 13年 遠賀川橋完成 ♫ 虫生津辛子畑(6町6反6畝)今古賀(41町9反)土地改良を行う ♫ 14年 郡制廃止により合併の機運醸成する ♫ 15年 6 実業補習学校に青年訓練所を併設し、島門、浅木両小学校を公民学校と改称し併置する ♫ 15年 8 神田川分水について八幡製鉄との覚書成立 昭和元年 入江タクシー遠賀川で開業 ♫ 2年 乗合自動車(大和バス)始めて遠賀川一本月間開通 ♫ 3年 浅木村公設消防組織 ♫ 3年4月 浅木小学校に実科女学校を併置 ♫ 4年 4 浅木村と島門村合併、遠賀村誕生 ♫ 老良区を浅木小学校の通学区とする ♫ 4年 旱魃あり ♫ 5年 神田川開通 ♫ 6年 国道完成 ♫ 6年 6 遠賀村役場庁舎完成 ♫ 7年 芦屋軽便鉄道事業不振のため廃止 ♫ 7年 9 老良小学校を浅木校に合併、尋常4年以下を以て老良分教場を設立 ♫ 8年 遠賀村産業組合を設立 ♫ 失業対策事業として西川改修工事始まる ♫ 8年 3 老良分教場を廃止 ♫ 9年 6 大旱魃、寿命堰ネコ掛け、及び塩田堰の築堤  遠賀川、寿命堰のネコ掛け風景		 現在の遠賀川駅	

年 月	事 績	年 月	事 績
〳 23 年	農業協同組合法により遠賀村農業協同組合を設立	〳 30年 3	遠賀川大橋落成（巾員6m長サ375m工事費164,091,000円）
	遠賀村農業協同組合	〳 30年 4	山びこ保育園設置
		〳 30年 5	遠賀中学校女生徒制服制定
〳 23 年	遠賀川駅、急行列車停車駅となる	〳 31 年	農山漁村振興計画特別指定地域となる
〳 23年 9	遠賀中学校校舎第1期工事竣工（8教室）	〳 32 年	青年研修所開設
〳 24年 4	島門小学校体育保健の研究について県の実験学校となる（3年間）	〳 〳	老良土地改良事業開始（32町1反）
〳 24年 6	西川堤防決潰	〳 33年 3	遠賀中学校体育館落成
〳 24年10	遠賀中学校校舎第2期工事竣工	〳 33年 4	浅木小学校、県の理科教育における実験観察指導の研究委嘱校となる
〳 25年10	遠賀保育園設置	〳 34年 4	南部保育園設置
〳 26 年	ケイト台風により浅木、島門両小学校の改築始まる	〳 35 年	役場庁舎増築（村長室、助役室、土木課室）
〳 26年 6	遠賀中学校校舎第三期工事竣工	〳 35 年	島津、土地改良事業を行う（25町）
〳 28年 4	遠賀中学校、文部省の産業教育研究校の指定を受ける	〳 35年 8	養老施設「遠賀静光園」設置51名収容
〳 28 年	虫生津の鉾害復旧始まる（45町6反）	〳 35年 9	遠賀川駅、特別待合室（R・T・O）閉鎖
〳 28年 6	遠賀川堤防決潰大洪水	〳 36年 2	浅木校、理科教育の表彰を受け記念碑を建てる
〳 29 年	島門、浅木両小学校改築	〳 36年 4	島門小学校、道徳教育の研究について県の委嘱校となる（3ヶ年間）
〳 29 年	浅木の鉾害復旧始まる（50町6反7畝）	〳 36年 6	芦屋鉄道廃止
〳 29年 3	郵便局舎、役場横から現在位置に移転	〳 〳	国鉄電車開通
	遠賀郵便局	〳 37年 2	三菱鉾業鞍手炭坑閉山
		〳 37 年	西川改修工事（浚渫）始まる
〳 29年12	合村25周年記念式	〳 37年12	緊急失業者就労対策事業を起し山手線道路改良工事着手
〳 30 年	木守の鉾害復旧始まる（25町5反）	〳 38年 3	役場庁舎改造
〳 30 年	遠賀村公民館別館落成	〳 38年 4	第1次役場事務改善を行う
〳 32年 2	遠賀村簡易水道浄水場完成	〳 38年 8	島門小学校防音校舎建築始まる（39年度完成予定）
		〳 33年10	遠賀川駅前信号機設置
		〳 38年10	三菱鉾業株式会社新入鉾業所閉山
		〳 38年10	産炭地事業団、虫生津団地造成起工
		〳 39年 4	町制を施行する

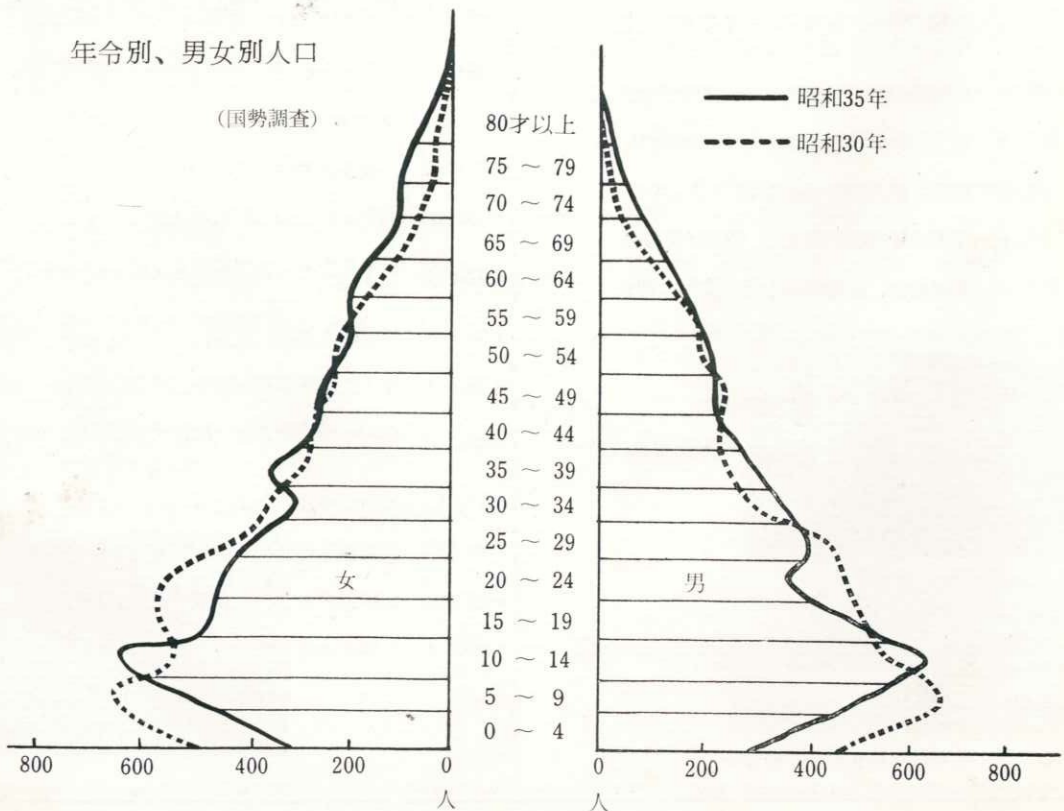
人口

年次別人口世帯数調

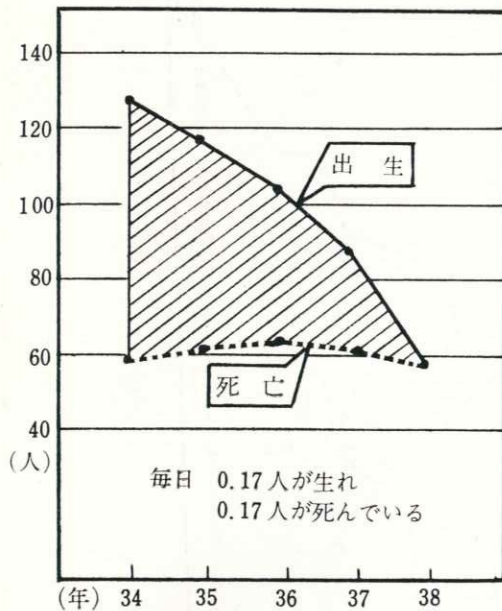
年 次	世 帯 数	人		口 計	摘 要
		男	女		
明治44年	1.056	3.879	3.913	7.792	町 調
大正9年				5.621	国 調
〃 14年				5.603	〃
昭和5年	955	2.710	2.845	5.555	〃
〃 10年	1.045	2.979	3.007	5.986	〃
〃 15年	1.774	4.904	4.649	9.553	〃
〃 22年	1.692	4.506	4.677	9.183	〃
〃 25年		4.955	5.226	10.181	〃
〃 30年	1.848	4.506	5.209	10.115	〃
〃 34年	1.779	5.091	5.158	10.249	町 調
〃 35年		4.590	4.915	9.505	国 調
〃 36年	1.742	4.989	4.980	9.969	町 調
〃 37年	1.713	4.870	4.869	9.739	〃
〃 38年	1.736	4.899	4.865	9.764	〃

年令別、男女別人口

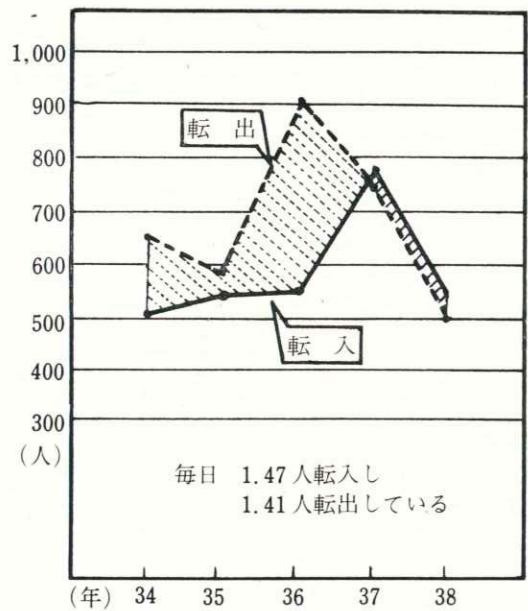
(国勢調査)



自然人口動態



社会人口動態



※ 38年 死産 1. 唱姻 80. 離婚 11.

本籍人口

34年	35年	36年	37年	38年
11.517	11.613	11.696	11.714	11.742

外国人登録人口

年次	朝鮮人	韓国人	その他	計
34年	115	25		140
35年	98	18		116
36年	91	15		106
37年	79	15		94
38年	52	17		69

部落別の世帯と人口

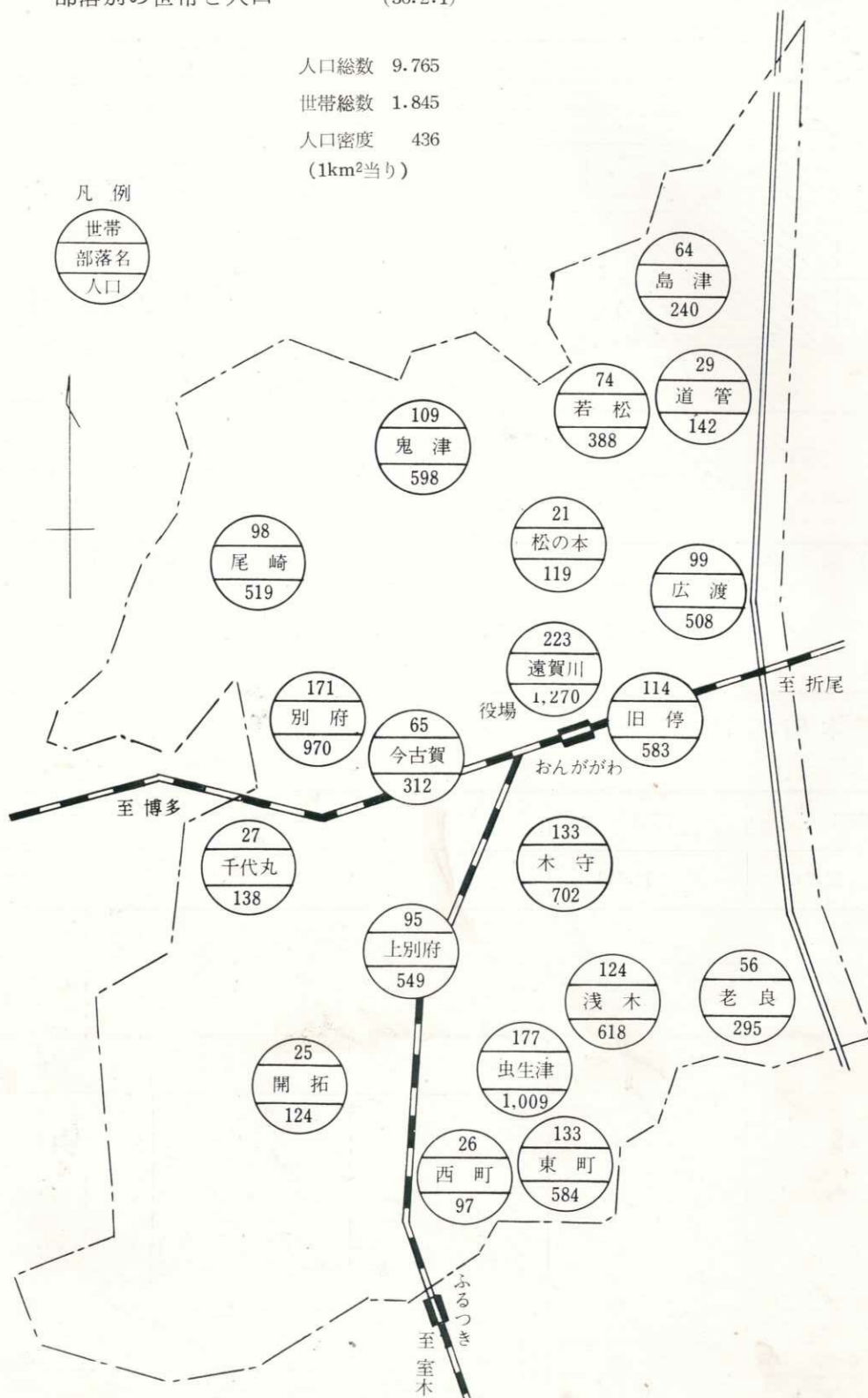
(36.2.1)

人口総数 9,765

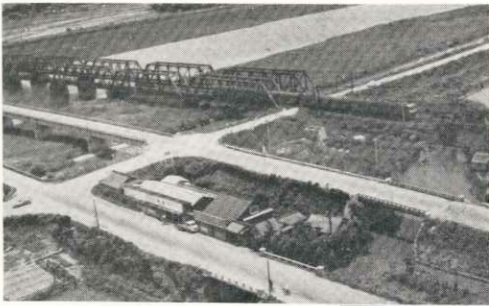
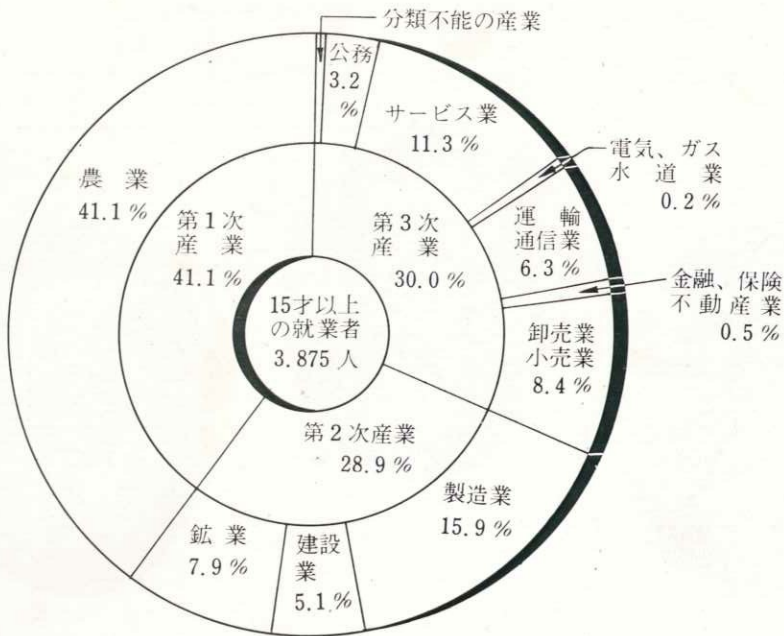
世帯総数 1,845

人口密度 436
(1km²当り)

凡 例



産業別就業人口



本町の通勤者数は

八幡製鉄所	170人
国鉄	71人
教職員	85人
北九州市役所	51人
三菱化成	48人
黒崎窯業	37人
安川電機	26人
その他	710人

計 1,198人で

年々増加の一途を辿っている。

一日の勤労を終え家路を急ぐ通勤者

行政



助役
有吉 寿



村長
小川 登一郎

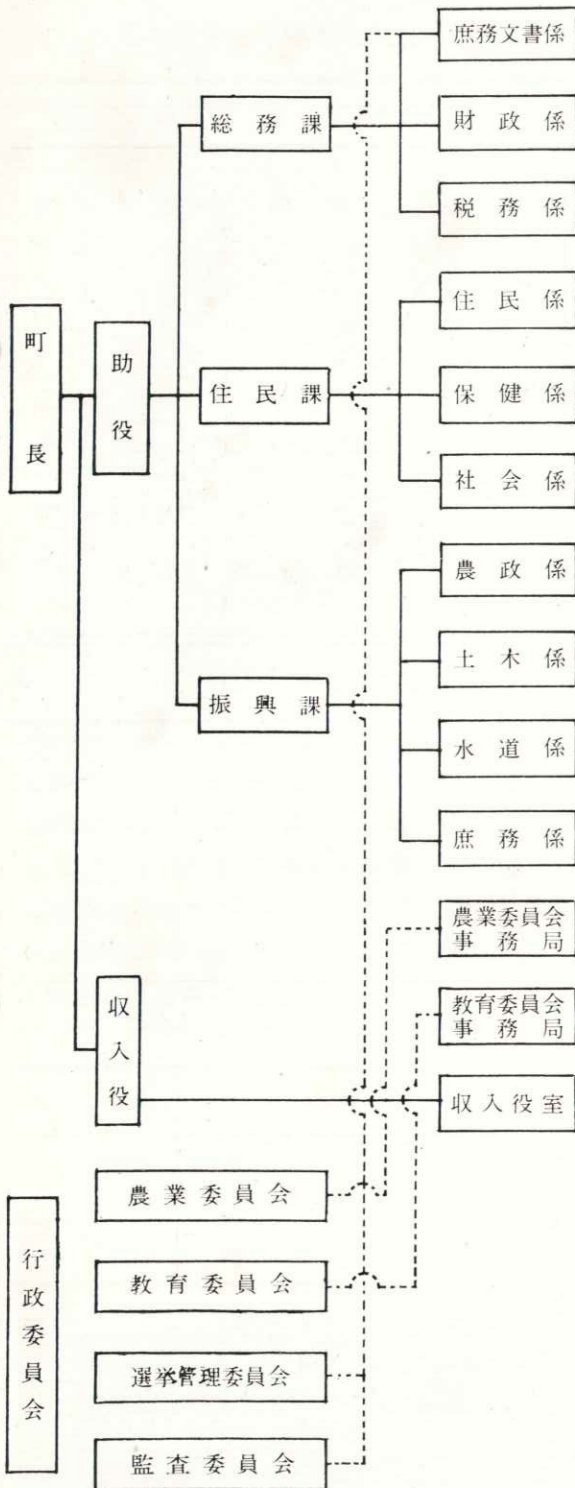


収入役
小川 泰

歴代村長

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	有吉 曆太郎	昭 4. 6. 7	昭 5. 9. 27
2代	原田 房太郎	〃 6. 1. 1	〃 9. 12. 31
3代	柴田 円太	〃 10. 1. 28	〃 14. 1. 27
4代	安部 伝次	〃 14. 6. 27	〃 18. 6. 26
5代	加藤 猛雄	〃 18. 12. 29	〃 20. 6. 19
6代	名和 朴	〃 20. 7. 16	〃 21. 10. 15
7代	古野 繁樹	〃 22. 4. 5	〃 26. 4. 5
8代	〃	〃 26. 4. 23	〃 30. 4. 30
9代	有吉 茂也	〃 30. 5. 1	〃 34. 4. 8
10代	〃	〃 34. 5. 1	〃 38. 4. 23
11代	小川 登一郎	〃 38. 5. 1	

行政機構図



職員の給与人事、総合企画、条例規則、消防、庁内管理、公用自動車、選挙、監査、文書、広報、行政統計、渉外

予算の編成及び執行、地方交付税、財産管理、契約締結、その他財政一般、用度

普通税の賦課徴収、納税組合、固定資産評価審査委員会、その他税一般

来訪者の受付案内、陳情苦情相談、戸籍住民登録、印鑑証明、配給、諸証明の作成発行、犯罪人名簿、課内庶務、他課係への窓口文書のとりつき連絡

国民健康保険事業の運営、国保運営協議会、保健一般、衛生一般

社会福祉、社会保障、諸援護、募金、国民年金、その他民生一般

農業の近代化、米穀の管理、生産指導、農村モデル住宅、海外移住、土地改良、農林統計、その他農林畜産業の振興

国県営土木事業の促進、村道、橋りょう、河川、等の新設改良、維持管理、占使用、災害復旧、他課係の各種事業の技術、建築

簡易水道の維持修理、検針事務、使用料を徴収、その他水道運営

課内予算執行、30万円以下の契約締結、課内文書の調整、企業の振興、中小企業金融、登記、商工業、その他課内庶務

農業委員会、農地法、自創資金、その他農地一般

学校教育、社会教育、公民館活動の一般

金銭金券の出納、有価証券担保金の保管、物品出納保管及び検収、使用料、手数料その他収入金の収納、その他収入役の事務

職員の定数

事務部局	吏員	その他の職員	計
村長	41	4	45
議 会	1		1
農 業 委 員 会	2		2
教 育 委 員 長	3	10	13
選挙管理委員会	(1)		(1)
計	47	14	61

行政委員会
農業委員会委員

氏 名	備 考	氏 名	備 考
仲 野 馨	会長選任委員	柴 田 盛 彦	
仲 山 頼 夫	副会長	二 村 道 徳	
石 松 薫		柴 田 治 美	
舛 添 義 光		安 藤 智	
太 田 末 吉		井 口 強	選任委員
古 畑 成 久		旗 生 重 巳	選任委員
森 末 男			

教育委員会委員

氏 名	備 考
土 師 晋	教育委員長
高 椋 一 利	
太 田 渚	
伊 藤 輝 雄	
安 増 茂 実	教育長

選挙管理委員会委員

氏 名	備 考
鶴 田 義 人	委員長
小 野 藤 右 門	
毛 利 盈	
高 崎 利 雄	

監 査 委 員

氏 名	備 考
德 王 実	学識経験者
秦 宝 一	議会代表

固定資産評価審査委員会委員

氏 名	備 考
石 松 秀 雄	委員長
秦 徳 雄	
林 国 雄	



役場受付



執務状況

選挙

基本選挙人名簿登録人員

投票区	投票所	登録人員		
		男	女	計
第1投票区	島門小学校講堂	585	658	1,243
〃 2 〃	遠賀村役場	825	941	1,766
〃 3 〃	浅木小学校講堂	602	978	1,280
〃 4 〃	虫生津公民館	380	437	817
計	4	2,392	2,714	5,106
確定日	昭和38年12月20日			

選挙執行状況 (昭和38年)

選挙名	選挙執行年月日	有権者総数	投票者総数	投票率	立候補者数	定数
参議院議員補欠選挙	38. 4. 9	5,023	1,384	27.55	3	1
福岡県知事選挙	38. 4. 17	5,070	3,801	74.97	2	1
福岡県議会議員選挙	38. 4. 17	5,070	無投票			
遠賀村長選挙	38. 4. 30	5,238	無投票			
遠賀村議会議員選挙	38. 4. 30	5,238	4,893	93.41	24	16
遠賀村農業委員会委員選挙	38. 7. 15	2,802	2,103	75.05	12	10
衆議院議員総選挙	38. 11. 21	5,174	4,379	84.63	9	5



公明選挙啓発活動

※映画と話し合いの集い※

消 防

消防団員数

団 長	1	班長	16
副 団 長	2	団員	121
分 団 長	8		
副分団長	8	計	156



出 始 式

水 防 訓 練

消防施設状況

分 団	管 轄 区	ポ ン プ の 数				ホース	防火水槽	消火栓	望 楼	拡声器	サイレン
		四 輪	三 輪	手 引	可 般						
第1分団	広渡 老良				2	17		6	1	1	
〃 2 〃	別府今古賀				2	11	2	3	1	1	
〃 3 〃	鬼津 尾崎				2	13	4		1	2	1
〃 4 〃	水守上別府				2	18					1
〃 5 〃	浅木虫生津				2	19		4			
〃 6 〃	東町 西町					7		4			
〃 7 〃	若松 島津				2	20	3		1	2	
〃 8 〃	遠 賀 川 (木村一円)	1	1			26	2	4	1		1
計		1	1		12	131	11	21	5	6	3

年次別、種別火災発生状況

区 分	34年	35年	36年	37年	38年	計
居住専用住宅	1				1	2
店舗併用住宅						
産業専用住宅	2		1	1		4
山林 原野		1	2			3
そ の 他		1		1		2
計	3	2	3	2	1	11

議 決 機 関



議 長
柴 田 貫 蔵



副議長
有 吉 茂 也

歴代議長

代 位	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日
初 代	毛 利 盈	昭 22. 5. 1	昭 26. 4. 29
2 代	井 口 強	〃 26. 4. 30	〃 30. 4. 29
3 代	井 口 強	〃 30. 4. 30	〃 34. 4. 30
4 代	仲 野 馨	〃 34. 5. 1	〃 38. 4. 30
5 代	柴 田 貫 蔵	〃 38. 5. 1	



議 会 開 催 状 況



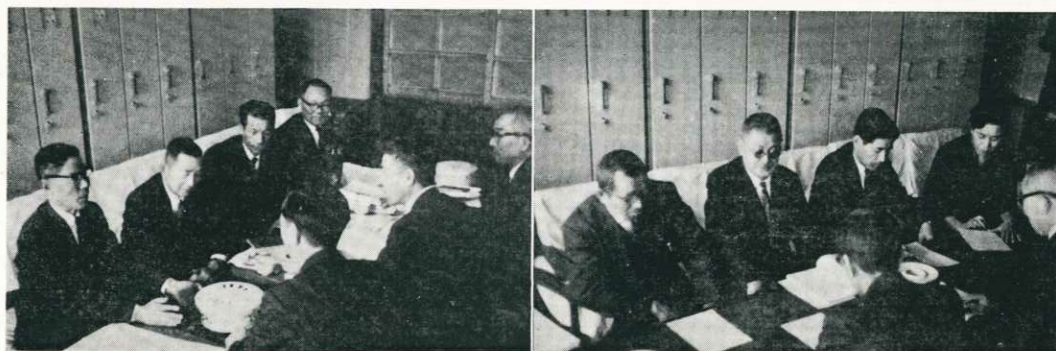
委 員 会 の 現 場 視 察

議 会 議 員 名 簿

議席番号	氏 名	住 所	年 令	所属常任委員会	備 考
1	柴 田 貫 蔵	広 渡	51	民生文教委員会	議 長
2	中 村 嘉 六	東 町	55	総務財政委員会	◎
3	柴 田 ア キ	遠 賀 川	61	民生文教委員会	
4	毛 利 善 夫	虫 生 津	56	土木経済委員会	○
5	近 松 庫 義	木 守	66	民生文教委員会	○
6	秦 宝 一	鬼 津	60	土木経済委員会	
7	柴 田 涼	広 渡	47	総務財政委員会	
8	仲 野 馨	別 府	65	民生文教委員会	◎
9	池 浦 順 一	尾 崎	61	総務財政委員会	○
10	有 吉 茂 也	浅 木	71	〃	副議長
11	高 崎 重 徳	木 守	40	土木経済委員会	
12	重 広 新	広 渡	50	〃	◎
13	旗 生 重 巳	尾 崎	44	民生文教委員会	
14	松 井 清	尾 崎	46	土木経済委員会	
15	矢 野 速 雄	島 津	48	〃	

※ ◎印……委 員 長

○印……副 委 員 長



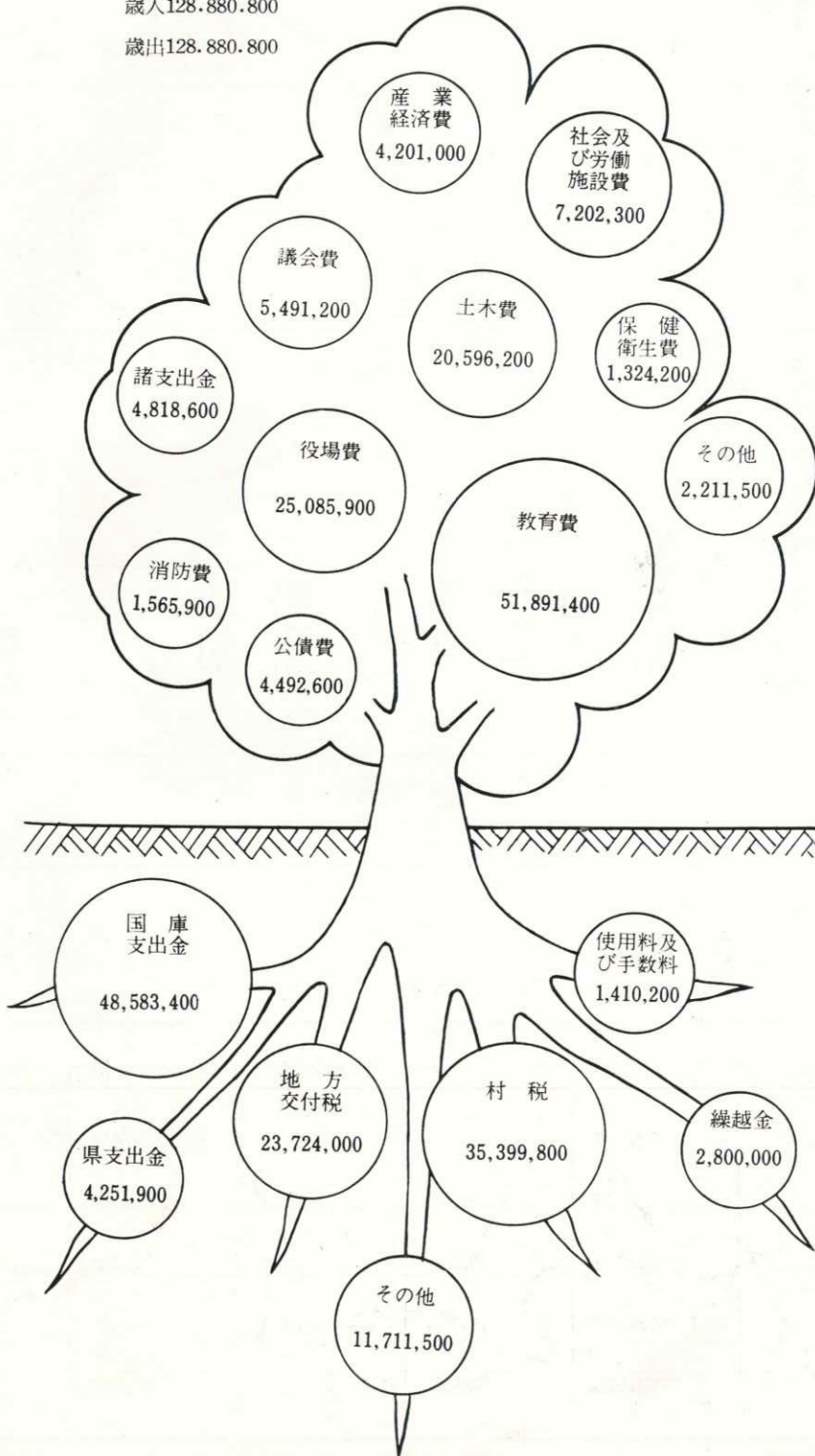
委 員 会 の 審 議 風 景

財 政

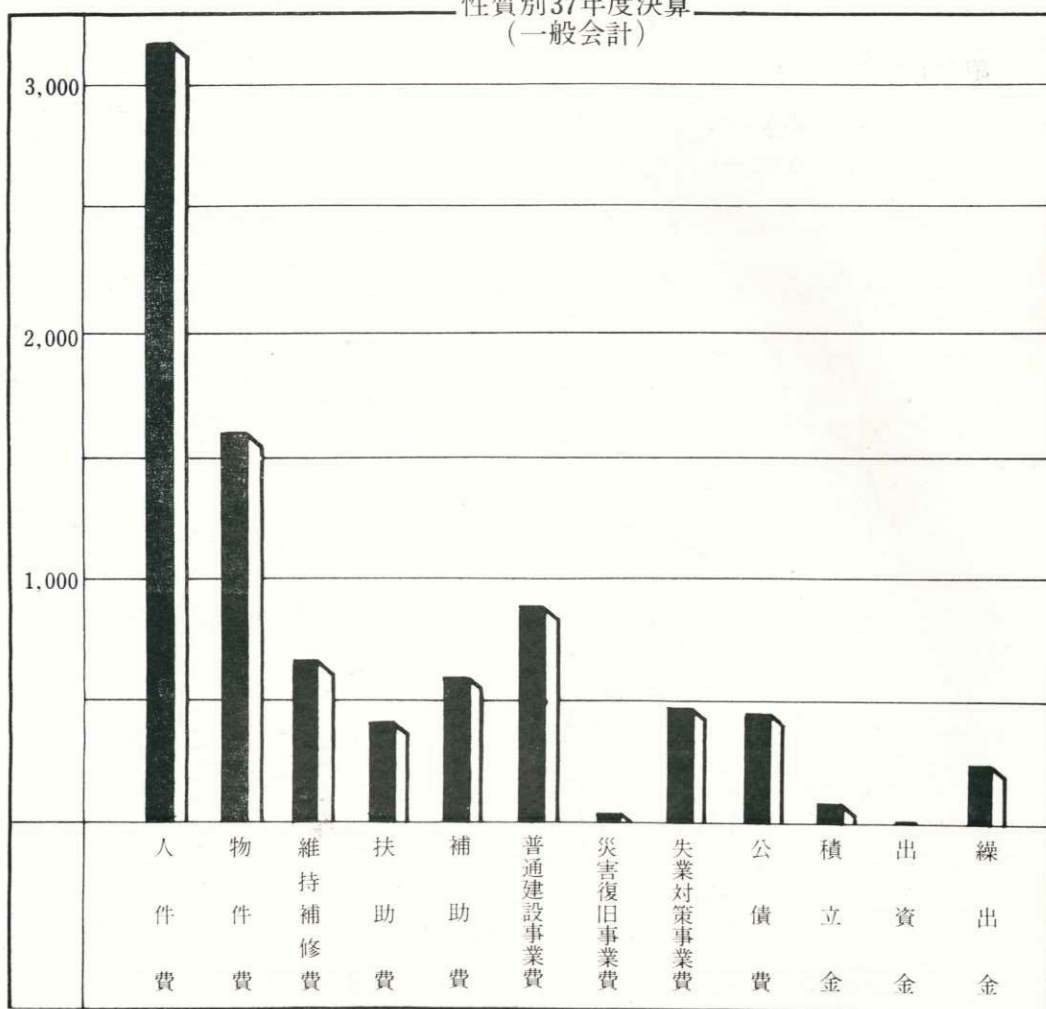
昭和38年度当初予算額

歳入128.880.800

歳出128.880.800



性質別37年度決算
(一般会計)



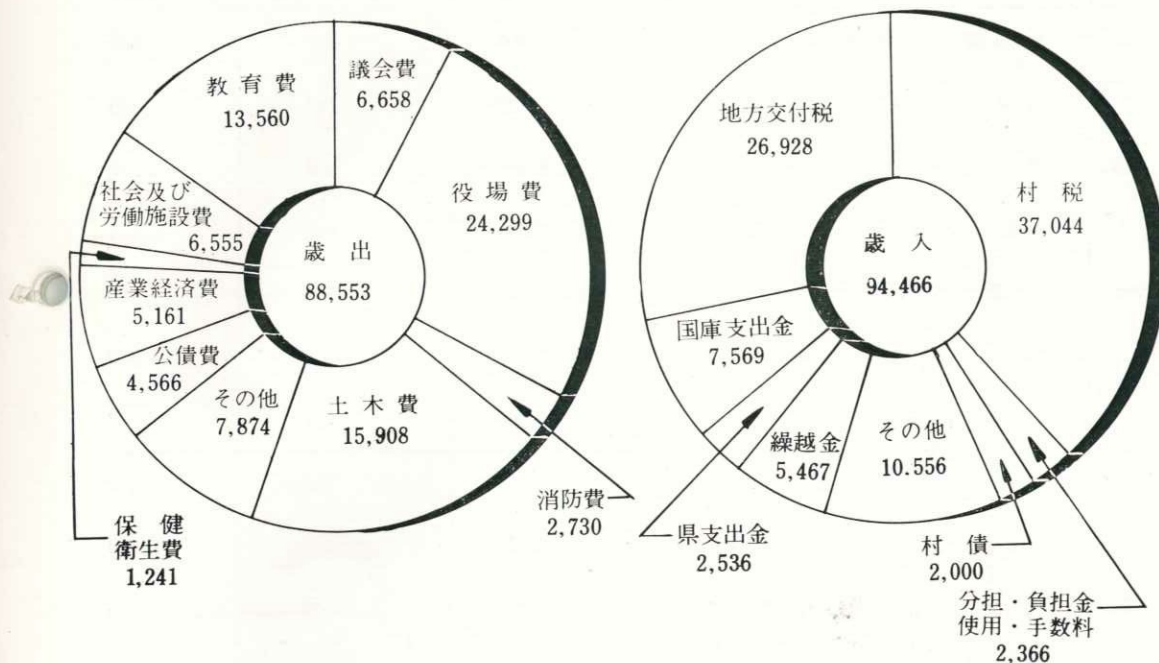
一般会計年度別決算

(単位千円)

年 度	最終予算額	決 算 額			
		才 入	年予算割合	才 出	対予算割合
3 3	58.177	58.618	100.8	55.444	95.3
3 4	65.142	62.098	95.3	61.575	94.5
3 5	80.554	80.378	99.8	77.725	96.5
3 6	73.500	75.916	103.3	70.450	95.9
3 7	91.918	94.466	102.8	88.553	96.3

目的別37年度決算

(一般会計)



基準財政収入額及び需用額の推移

区 分	34 年度	35 年度	36 年度	37 年度	38 年度
収 入 額 (A)	15.481	16.266	16.745	17.748	18.718
需 要 額 (B)	25.697	29.614	36.337	41.861	48.289
交 付 基 準 額 (A) - (B)	△ 10.216	△ 13.348	△ 19.642	△ 24.113	△ 29.571

地方交付税の推移

区 分	33 年度	34 年度	35 年度	36 年度	37 年度
普 通 交 付 税	9.197	10.216	13.348	19.642	24.113
特 別 交 付 税	931	1.387	1.482	2.024	2.815
計	10.128	11.603	14.830	21.666	26.928

起 債 の 現 況

(単位千円)

借 入 年 度	起 債 目 的	起 債 金 額	37年度償還額	未 償 還 額
27	島 門 浅 木 小 学 校 災 害 復 旧	4.200	457	1.595
〃	浅 木 小 学 校 災 害 復 旧	800	87	368
28	簡 易 水 道	4.250	404	3.140
〃	学 校 及 び 一 般 土 木 災 害 復 旧	7.300	831	5.159
〃	農 業 土 木 災 害 復 旧	1.200	177	476
〃	学 校 及 び 一 般 土 木 災 害 復 旧	1.650	188	1.166
29	役 場 庁 舎 災 害 復 旧	500	74	257
〃	簡 易 水 道	2.500	263	2.172
〃	〃	4.250	448	3.480
30	消 防 施 設 整 備 事 業	1.000	179	0
〃	遠 中 校 舎 増 築 事 業	1.500	150	1.021
31	県 営 事 業 負 担 金	5.500	597	4.052
33	遠 中 屋 体 建 設	2.500	223	2.271
34	老 良 簡 易 水 道	1.100	90	1.041
〃	一 般 土 木 農 業 土 木 災 害 復 旧	1.000	109	905
35	役 場 庁 舎 増 築	1.000	91	972
〃	公 営 住 宅 建 設	1.500	137	1.457
〃	遠 中 校 舎 増 築	2.100	192	2.040
〃	退 職 債	2.000	742	708
36	簡 易 水 道	1.700	101	1.700
37	消 防 施 設 整 備 事 業	1.000		1.000
〃	遠 中 特 別 教 室 増 築	1.000	前借利子 20	1.000
総 計		49.550	5.565	35.980
内 訳	一 般 会 計	33.750	4.258	24.443
	簡 易 水 道	13.800	1.307	11.532

村税の年次別収入状況

(単位千円)

年 度	予 算 額	調 定 額	収 入 済 額	収 入 歩 合
33	30.419	35.750	32.233	90.17
34	31.971	37.808	33.206	87.82
35	35.391	39.621	35.477	89.54
36	34.764	42.082	37.192	88.37
37	34.757	42.298	37.044	87.57

住民の税負担状況

(37年度決算)

一人当り



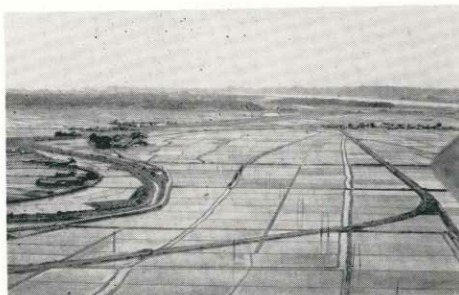
一世帯当り



37年度の村税内訳

(単位千円)

税 の 種 別	調 定 額	比 率
村 民 税	11.996	28.4
固 定 資 産 税	20.768	
交 付 金 納 付 金	3.503	
軽 自 動 車 税	894	2.1
た ば こ 消 費 税	3.144	7.4
電 気 ガ ス 税	1.624	3.8
鉱 産 税	369	0.9
計	42.298	100.0



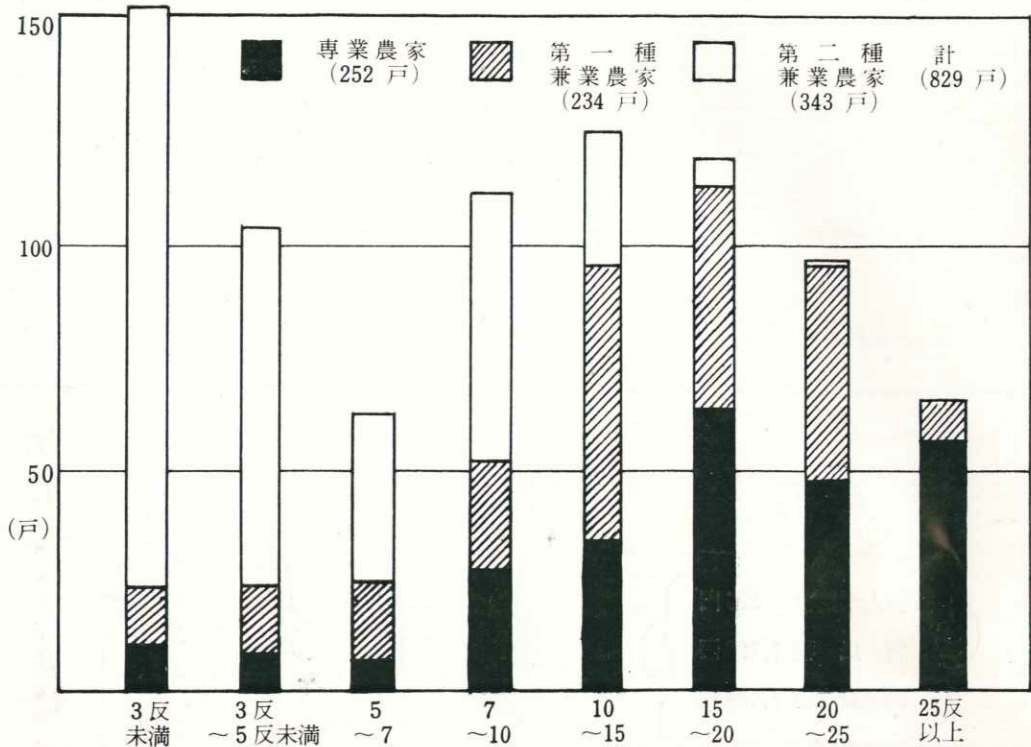
遠 賀 平 野

(今古賀上空より島津方面を望む)

産 業

農 業

経営広狭別、自小作別農家戸数



農用機械など

(38年10月)

機 械 名	個人所有	共有
動力耕耘機 (牽引型を含む)	266	48
発 動 機	379	12
電 動 機	414	7
動 力 脱 穀 機	502	13
粗 摺 機	210	27
噴 霧 機	24	4
撒 粉 機	39	22
カ ッ タ ー	126	12
揚 水 機	334	11
農用トラック・オート三輪	28	3
サ イ ロ	44	
乾 燥 機	25	

農業のあゆみ

遠賀町の農業の昔を偲べば、現在と隔世の差がある。変つた最も大きい原因は遠賀町の中心を南北に流れる西川の変化に因を発するものである。

この西川は大正の初期までは魚類の遊泳する清流であり、周辺田園の灌漑用水として重要であると共に排水の役もなしていたが、周辺町村の炭坑の発展と共に世にも不思議な河川と変つてしまった。之と併行して遠賀町一千町歩の水田も大きな変遷を来した。

水田の60%が二毛作田であつたが、現在では30%に減退している。

西川の変化による農業生産の低下と、必要経費の増加は、遠賀町農業の不振の一大原因となつて来た。

労働力の変化と対策

明治、大正にかけて小作農業で有名であつた耕作状態が、終戦後に農地改革が実施され、自作農創設特別

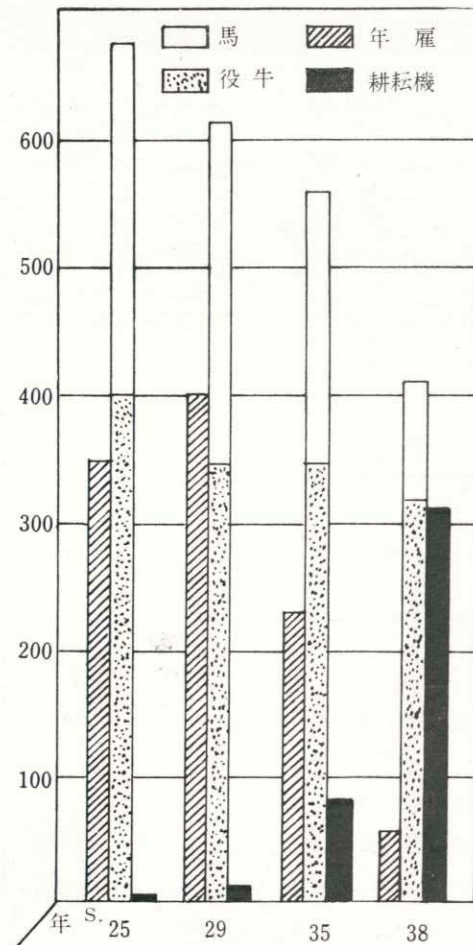
措直法により90%以上が自作農となり、熊本県天草地方から表に示す様に年雇が全村内農家に雇傭され、最多時には400名に達していたが、現在では全村内に52人が止まり、その他は総て臨時雇傭で補われている。

農家が労力は今後も増加の見込みはなく、一層減退し、他産業に吸収されることが予想されるので、この対策として機械化或いは共業化の推進をすべく計画中である。

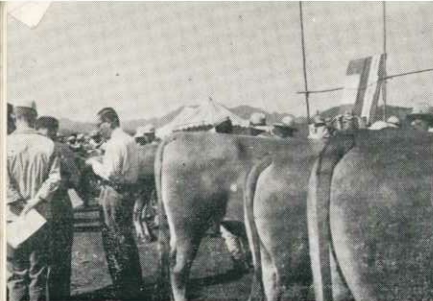
経営土地面積

地 目			面 積	
耕 地	田		(町) 914	
	畑	温 室 畑	113	
		普 通 畑	113	
		焼 小 計	113	
	樹 園 地	果 樹 園	4	
		茶 の 園	5	
		そ の 他 小 計	9	
	耕 地 面 積 計		1.036	
	耕 地 以 外 の 土 地	草 地	採 草 地 小 計	1 1
		山 林	人 工 林	104
採 草 する も の			1	
そ の 他			66	
小 計			171	
宅 地		42		
荒地溜池農道水路		6		
耕地以外の土地計		220		
経 営 土 地 面 積 合 計			1.256	

役牛・馬・耕耘機・年雇の変せん



玉葱の共同出荷風景
(作付面積30町歩、総生産量1270トン)



畜産共進会

水稻航空防除

土壌調査

農業委員会

農業委員会の構成

委員数			職員数	
選挙	選任	計	定数	実数
10	3	13	2	2

事務取扱件数

(37年度)

事務の区分	受付件数	処理件数	許可件数	備考
権利移動関係	121	121	121	2,100,000円
転用関係	2	2	2	
転用のための権利移動関係	14	14	14	
自創資金関係	11	11	11	
賃貸借の解除又は解約	1	1	1	
その他農地法関係	6	6	6	
その他の一般事務	222	222	222	

委員会の開催状況

(37年度)

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
農地法関係	1		1	1		1	1	1	1	1	1	2	11
土地改良関係													
食糧関係			1										1
農業振興関係													
その他													
上記のものを兼ねて議題としたもの		1			1						1		3
計	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	15

商 工 業

当町商工業者総数254戸の内、商業者は232戸、工業者は22戸で、商業者の多くは遠賀川駅前国道周辺に商店街を形成し、工業者の大部分は粘土瓦製造が多く14戸を数え、近郊市町村の需要の大半を製造している。

昭和36年度に新しい商工会法に基き、法人組織として改善普及員を常置し、商工業の発展対策並びに指導改善を推進している。組合員も 165 戸

を数えているが、最近産炭地振興事業も軌道に乗り、着々と商工業者の入植希望があり、現在既に6商工業者の建設事業が進行中である。また三菱炭硯跡地には約3万坪の工場適地があり、中小企業者の要望に応えるべく整備を進めている。

以上のほか、国道沿線の道路計画も樹立中であり、地理的好条件と相まって市街地形成が急がれている。



遠 賀 川 商 店 街



建設中の新西工業



関西財界人の産炭地視察



産 炭 地 風 景

交 通 通 信 文 化

遠賀川駅乗降客調べ

年 度	乗 客	降 客	計	一 日 平 均
大正 13	312.081	309.887	621.968	1.704
昭和 2	238.857	237.000	475.857	1.304
33	653.207	633.759	1.286.966	3.526
34	660.460	643.691	1.304.151	3.573
35	723.288	709.003	1.432.291	3.924
36	716.675	716.646	1.433.321	3.927
37	777.699	775.391	1.553.090	4.255

郵便施設及び集配数

1. 特定局 遠賀川郵便局 (集配局)
2. 集配区 市内2度地1区 市外2度地1区 市外1度地3区
3. 集配数

区 分	引 受	配 達	到 着	差 立
普通通常郵便物	1.160	1.815	1.665	1.111
書留通常郵便物	38	51	45	31
小包郵便物 (特殊取扱を含む)	40	40	40	39
年賀郵便物	8.871	15.928	8.696	11.609

※ 普通通常郵便物は、38年10月から38年12月までの

1日平均取扱数

※ 39年度年賀ハガキ売捌数73,000枚

通信施設と通話取扱状況

区 分		37年
電話交換設備状況	市 外 局 線 数	5
	市 内 交 換 台	2
	加 入 者 数	133
	農 村 公 衆 電 話	14
通 信 状 況	市外通話取扱度数	
	発 信	6.332
	着 信	6.035
	計	12.367
	市 内 通 話 度 数	44.240

※ 電報 発信 344件

着信 761件

テレビ新聞等の普及状況

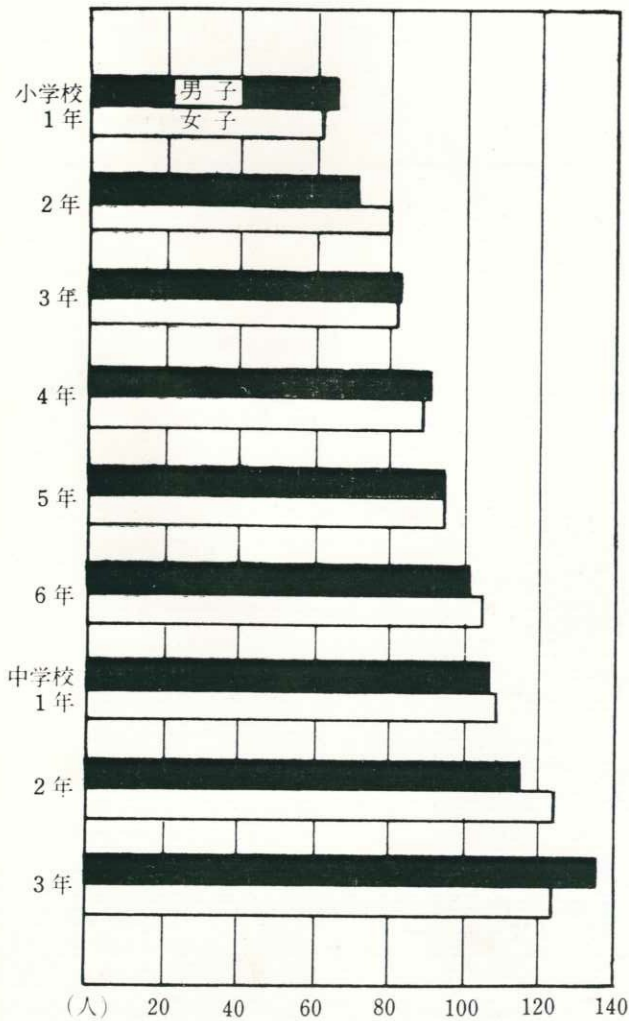
テ レ ビ 受 信 者	ラ ジ オ 聴 取 者	新 聞 購 読 者
1.335	158	1.568

教 育

学校一覧表

学 校 名	校 長 名	開 校 年 月 日	学級数	生徒児童数			職員数
				男	女	計	
遠賀中学校	小 野 敏 行	昭和22. 4. 1	16	359	357	716	28
島門小学校	柴 田 正 生	明治35. 9. 2	15	273	279	552	25
浅木小学校	入 江 義 政	〃 7. 4. 1	13	234	233	467	20

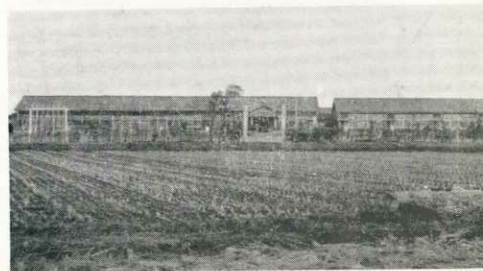
学年別、男女別、生徒児童数



遠賀中学校

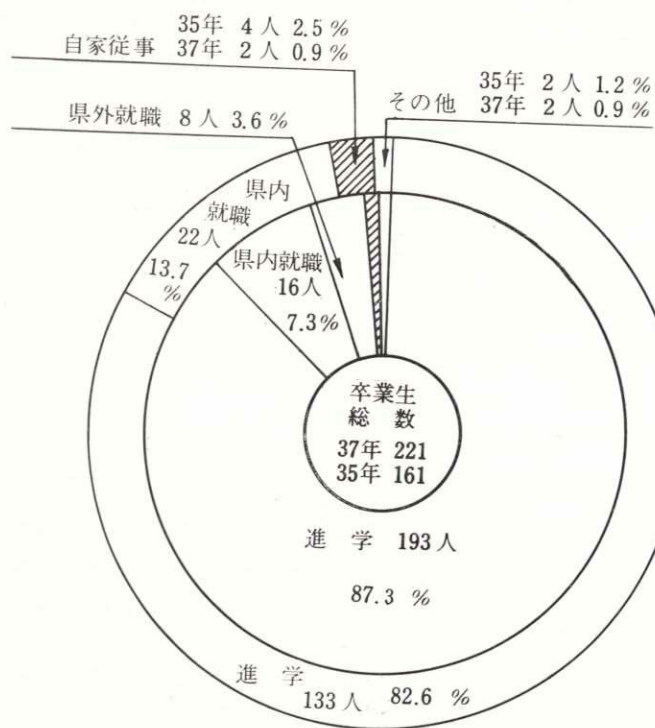


島門小学校



浅木小学校

中学卒業生の動き



中学校運動会

注 内円は37年度卒業生を
外円は35年度卒業生を
示す



防音校舎

(島門小学校)

在日米空軍の射撃訓練が始まつて10有余年になるが、島門小学校はその降下コースの直下にあるため、騒音測定の結果80～120フオンに達した。授業は再三中断され教育効果に及ぼす影響は大きく、38年8月から国庫補助による防音校舎(鉄筋コンクリート三階建)建築を進めているが、39年度中には完成する予定である。

社 会 教 育

38年の主な公民館行事

月	行 事
1	町村対抗駅伝大会、成人祭、青年マラソン大会
2	老人クラブ結成（分 毎に14クラブ）
3	文化祭
4	村婦人学級大会、村青年学級大会
5	成人学級、分館長視察研修会
6	
7	成人学級
8	子供会水泳大会、遠賀郡民体育大会
9	敬老会
10	分館対抗バレーボール大会、子供相撲大会
11	結婚改善強調月間
12	成人学級



婦人会の教養講座

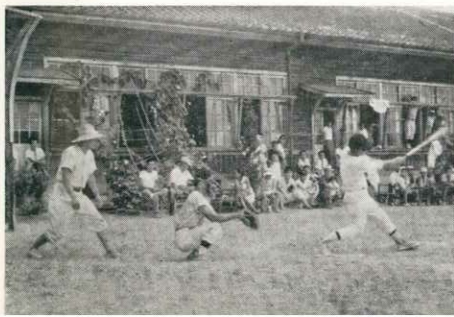
幼 児 教 育

山びこ保育園	給食実施
園長 松 尾 保 氏	
園児数	55
職員数	5
南部保育園	給食実施
園長 松 本 伝	
園児数	70
職員数	5
遠賀川保育園	給食実施
園長 白 石 幸 隆	
園児数	50
職員数	4

社会教育関係団体

団 体 名	団体会員数	活 動 の 内 容
婦 人 会	1,100	中央婦人学級の開校、支部婦人学級の開設並に発表会、あゆみの発行、老人ホームの慰問、支部教養講座の開設、各種募金の協力
青年団協議会	150	機関紙「つちくれ」の発行、公民館行事に協力、社会体育の推進
老人クラブ	700	分館単位に14クラブ（保健、体育、教養、奉仕）

分館対抗野球大会



子供会の楽しいキャンプ



文化祭での演芸



保 健 衛 生

国 民 健 康 保 險

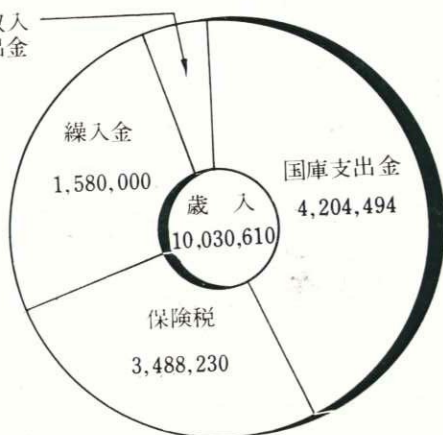
一 般 状 況

(昭.39.2.1.現在)

事 業 開 始	世帯と人口		国 保		加入割合		役 職 員		
	世帯数	人 口	世帯数	被保険者数	世 帯	人 員	運営委員	事務職員	保 健 婦
昭 29. 9. 1	1.737	9.771	852	3.497	49.1	35.8	9	専 1 兼 1	1

昭和37年度国保特別会計決算

繰越金、財産収入
手数料、県支出金
雑 収 入
275,238

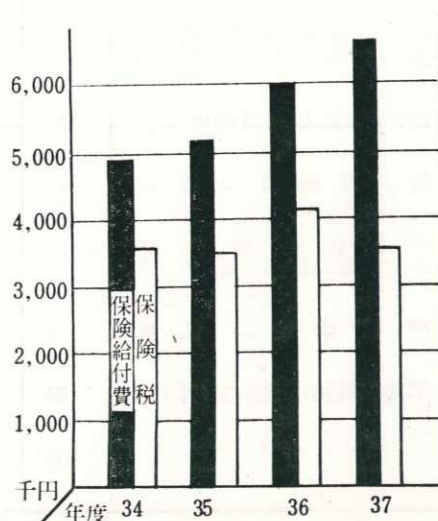


年度別保険給付状況

区 分	34年度	35年度	36年度	37年度
件 数	9.550	10.034	10.046	9.490
受 診 率	22.4	24.6	25.7	25.0
日 数	41.287	43.963	45.302	41.880
1 件 当 り 日 数	4.3	4.4	4.5	4.4
点 数	1.005.381.9	1.058.554.8	1.217.390.5	1.321.591.8
費 用 額	9.934.471	10.416.619	12.056.477	13.314.303
1件 当 り 費 用 額	1.040	1.038	1.200	1.402
被保険者1人当り療養費費用額	2.330	2.554	3.089	3.509
1 件 当 り 点 数	105.3	105.5	121.2	139.3

年度別保険給付額・保険税額比較表

区 分	34 年度	35 年度	36 年度	37 年度
年 間 診 療 件 数	9,550	10,034	10,046	9,490
療養給付費保険者負担分	4,910,757	5,170,417	5,979,893	6,568,289
年 間 平 均 世 帯 数	876	857	852	872
年 間 平 均 被 保 険 者 数	4,263	4,077	3,903	3,794
一世帯当り保険者負担額	5,609	6,033	7,018	7,532
〃 〃 率	100	108	125	134
被保険者一人当 保険者負担額	1,152	1,268	1,532	1,731
〃 〃 率	100	110	133	150
1件当り被保険者負担額	514	515	595	692
〃 〃 率	100	100	116	135
受 診 率	22.4	24.6	25.7	25.0
保 險 税 調 定 額	3,603,320	3,535,830	4,127,343	3,602,230
1世帯当り平均 〃	4,113	4,125	4,844	4,130
被保険者1人当り 〃	845	867	1,055	950



主要病類別性別受診状況

(国保38年5月)

区 分	男	女	計
伝 染 病 及 寄 生 虫	17	18	35
全 結 核	2	2	4
新 生 物 (ガ ン)	1	1	2
アレルギ-疾患 栄 養 の 疾 患	8	22	30
血液及び造血器の疾患			
精神病及人格異常	2	2	4
神経系及感 覚器の疾患	15	17	32
眼 科	11	12	23
耳 鼻 科	15	25	40
そ の 他			
循環器系 の 疾 患	20	36	56
高 血 圧	1	9	10
そ の 他			
呼 吸 器 系 の 疾 患	72	73	145
消 化 器 系 の 疾 患	49	44	93
歯 牙 及 組 織 の 疾 患	60	70	130
性 尿 器 系 の 疾 患	5	18	23
正 常 分 娩 異 常 分 娩 症 及 産 褥 の 合 併 症		5	5
皮フ及疎性結合組織の疾患	30	27	57
骨 及 運 動 器 の 疾 患	23	25	48
先 天 性 奇 形 及 び 新 生 児 の 主 要 疾 患			
症 状 老 衰 の 状 態	4	11	15
不慮の事故中毒及暴力(外 因)	24	14	38
計	359	431	790



小児マヒ生ワクチン投与



赤ん坊大会の表彰



結核管理検診

死 因 別 死 亡 者 調 (国保38年)

死 因 別 病 類	0~19才	20~39才	40~59才	60~79才	80才以上	合 計		
						男	女	計
脳 出 血		1	4	9	3	9	8	17
が 老 衰			8	7	2	9	8	17
肺 炎				2	9	2	7	9
事 故				3	3	1	5	6
心 臓 病	1	2	2	1		5	1	6
結 核		1	1	1		2	1	3
尿 毒				2			2	2
ぜ ん そ く				2		2		2
胆 石				1	1	1	1	2
未 児				1			1	1
そ の 他	2		2			1	1	2
						2		2



中間市遠賀郡環境衛生組合

養老施設 「静光園」

収容人員 54名

法定伝染病の発生状況 (() 書は死亡)

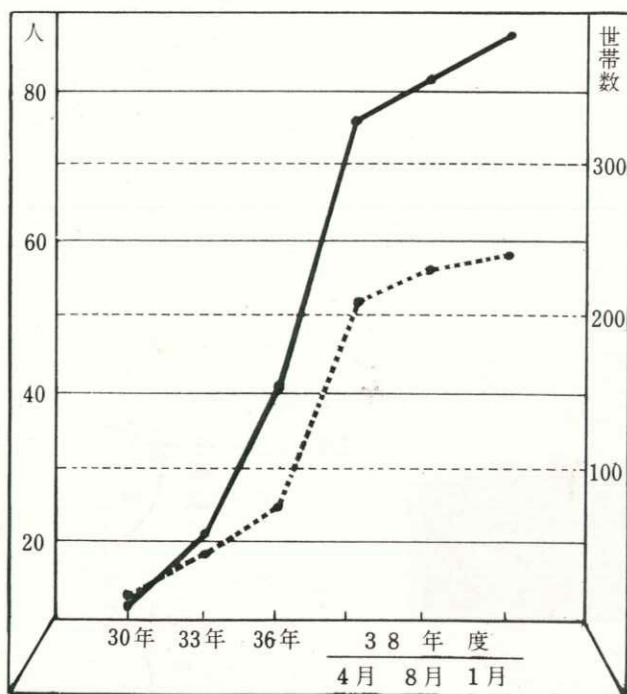
病 名	34 年	35 年	36 年	37 年	38 年
赤 痢	5	3	1	2	3
疫 痢			1		2
腸 パ ラ チ ブ ス	1				
猩 紅 熱					
流行性脳脊髓膜炎	1				
日 本 脳 炎					(1)
ジ フ テ リ ア					

社 会 福 祉

生活保護申請件数

年 \ 月	1	2	3	4	5	9	7	8	9	10	11	12	計
37年	6	2	7	9	13	13	4	12	9	11	18	14	118
38年	13	17	20	11	4	7	11	8	8	4	7	2	112

生活保護法による保護状況調 (4人比)



公 営 住 宅

村営住宅

鬼津団地

3棟 6戸

虫生津新屋敷団地

7棟 14戸

虫生津新屋敷団地

20棟 20戸

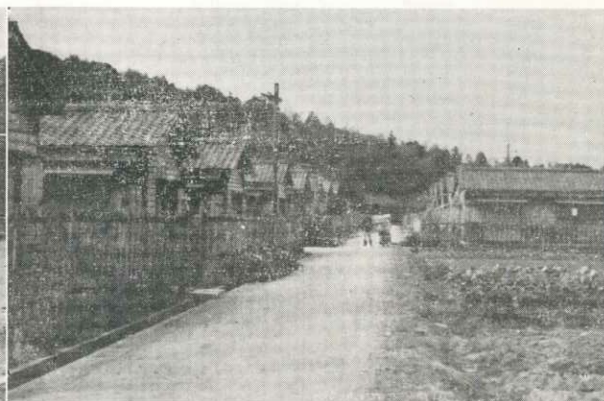
県営住宅

浅木団地

20棟 40戸



県営住宅浅木団地



虫生津新屋敷の村営住宅

国 民 年 金

被保険者数 1,550名 保険料免除者 270名

印 紙 売 捌 状 況 (37年度決算)

10円印紙	100円印紙	150円印紙	200円印紙	計
4枚 40円	6,998枚 699,800円	7,800枚 1,170,000円	141枚 28,200円	1,898,040円

保険料前納者数 {現金前納 3名 23,570円
印紙前納 2名 3,520円}

拠出年金 受給者 5名 年間給付額 115,200円

福祉年金 {老令年金 250名
母子年金 21名
障害年金 25名} 計 296名 給付年額 (S.37.4~S38.3)
3,133,852円

児童扶養手当 受給者 13名 年間給付額 211,200円



保育所の給食風景



養老院の散髪風景

33年2月から毎月1回、植木理髪店の奉仕により散髪を行っており、サツパリした毎日を過ごしている

土 木

最近 5 ケ年度の主な土木事業

(単位千円)

施行年度	事業別	工事の名称	工事金額
34	一般土木事業	虫生津ナギノ道路改良工事	397
"	"	虫生津字半田ヶ崎水路復旧工事	381
"	"	虫生津丁ヶ坪白水川堤防欠所復旧工事	1,148
"	老朽溜池工事	上別府添ヶ谷上溜池復旧工事	254
"	"	上別府添ヶ谷溜池復旧工事	274
"	"	虫生津字倉谷溜池復旧工事	903
"	一般土木事業	虫生津字大谷下水路復旧工事	377
"	"	虫生津字丁ヶ坪堤防欠所工事	300
35	"	虫生津字新屋敷道路改良工事	339
"	老朽溜池事業	虫生津字倉谷溜池復旧工事	1,385
"	一般土木事業	虫生津字大谷河川復旧工事	650
36	"	尾崎蟹喰コンクリート用水路工事	207
"	"	木守字蓮角水路改良工事	607
"	"	浅木桶洩水路改良工事	209
"	"	木守字夫入道水路浚渫工事	268
"	老朽溜池事業	別府字梅ヶ鼻老朽溜池補強工事	1,045
"	"	虫生津字黒松溜池改良工事	576
37	一般土木事業	虫生津小峯道路改良工事	255
"	"	広渡安丸道路改良工事	165
"	"	島津字柿ヶ尻井樋橋梁修理工事	200
"	老朽溜池事業	梅ヶ鼻老朽溜池工事	1,433
38	"	別府竹ヶ鼻樋閘改造工事	245
"	"	別府野中老朽溜池工事	2,591
"	"	上別府土取老朽溜池工事	2,618

町有道路と橋りょう

区 分		延 長 (m)	面 積 (㎡)
道 路	路面幅員 5.5m以上	2.360	15.340
	〃 5.5m未満 4.0m以上	3.566	17.830
	〃 4.0m未満 3.0m以上	23.836.2	76.275.8
	〃 3.0m未満	99.305	248.262.5
	合 計	129.067.2	357.708.3
橋 梁	木 橋	橋数 26 440.5	1.431.1
	石及びコンクリート橋	〃 114 440.6	1.129.6
	合 計	140 901.1	2.560.7

炭坑離職者緊急就労対策事業

工 事 の 名 称	失業者吸収人員	1日平均 就労人員	支 出 額		
			町 費	国 費	計
山手線道路改良工事	(内緊就5,520人) 6,494人	20人	2,978,000	7,408,000	10,386,000

遠賀村簡易水道事業

概況 昭和30年3月15日付で事業認可。計画給水人口3,000人。1人1日最大給水量150ℓ。1日最大給水量450t。

集水源吉原川表流水。総工事費22,542,000円。

事業開始 昭和30年3月15日。その後の追加工事（島門小学校配給水管工事。昭和36年12月賀遠中学校給水管工事。昭和38年2月）中間水道との直結

及び中間からの送水開始昭和36年12月。浄水場の撤去昭和37年3月

配水管の状況

管 経	管 種	延 長	備 考
125mm	石 綿 管	695m	
100mm	〃	1.105	
75mm	〃	3.778	
〃	ビニール管	744	
50mm	石 綿 管	6.470	
〃	ビニール管	50	
40mm 以下	〃	442	
計		13.284	石綿管 12.048 ビニール管 1.236

緊就（山手線工事）状況



昔を偲ぶ

浅木神社

(大字浅木)



祭神として日本武尊、相殿に応神天皇、素戔鳴尊が奉祀されている。棟札には朝木八剣大明神と記してある。遠賀郡七旧社の一つである。

社伝に「齊明天皇も此山の麓に御船を泊し玉ひしに、明日御饗の飯を炊むとて、此山の木を伐りて薪とし、船ごとに焼けるに、其香最も薫はしければ、天皇甚愛て玉ひ、今朝木の香はしき事朕が意に称へりと、宣ひしより、此山を朝木山と名付し由」とある。

元祿八年、黒田光之参詣して、折節紅梅が盛りであったので一首の歌をよんで奉った。その後、継高も花盛りに放鷹のためここに逍遙して、光之が愛でられたことをきき「狩衣の袖に移してかへらばや、浅木の梅の浅からぬ香を」と詠んでいる。

浅木神社

行満寺

(大字別府)

松林山と号し、真宗本派本山西本願寺に属し、古えは仏照寺末という。中本山である。明応年間の開基で昔は天台宗であった。

寺に木仏あり、三井寺の智証大師が嘉祥三年に入唐し天台山に寄寓して、智者大師の作を模刻したものといい、平景清の守り本尊であったと伝えられている。

又、当時二世浄安祖師が、新鸞上人の御影奉安の志深かったが、貧しくて之を買い求め得ず、一夜夢の中で彼の木仏よりお告げを受けた。〴〵汝がかねて希える上人の御影を調達すべき資金は、門前の銀杏樹にあり、速やかに取りて其の資に充てよ。浄安驚いて出て見ると、不思議にも樹上に灯火があったので直ちによじのぼってみると、素焼の注子の中に銀が入っていた。浄安は遂に多年の志望を達し得て、大いに仏恩に感喜したという。今も木仏、油瓶、注子共に宝物として珍藏されている。

木
仏



油瓶、注子と縁起書

愛嶽神社

(大字尾崎)



愛嶽神社跡

尾崎高山にあった。祭神は軻遇突智命であり、火難除け、牛馬の守護神である。今は牟田神社に合祀されている。古くは相当な大社で、旧藩中は乗馬の安全を祈るため藩士で遠騎参詣する者が絶えなかったという。大祭には遠近の農民が牛馬を美しく飾つて 100 余頭も参詣していたとも伝えられる。

「尾崎ヨイトコネー、愛嶽山の麓、牛馬の詣りをネチヨッテミチヨッター」

西 光 寺

(大字浅木)

恵日山と号し、浄土宗鎮西派中本山、芦屋町光明寺末である。

本尊阿弥陀仏座像(高さ1尺2寸)は恵心の作と伝えられている。古くは天台宗で浅木神社々僧の坊であったが、その後破壊されたのを明暦元年に欣誉という僧が再興して浄土宗に改めたものである。旧郡の7旧社の1つに数えられており筑陽記にも西光寺麻生氏の菩提所なりと記されているが、今は古えを知るに足るものがないのは残念である。



阿弥陀仏座像

今 泉 神 社

(大字上別府)

別府字南にある。祭神は大倉主命、菟夫羅姫命、相殿に日本武尊を祭ってある。此の地は古く太宰府の官人が出張して政務を執行した所であるので別府とい

う。元文三年に占部宿弥市太夫が記した社記1巻の中に八景が掲げてある。

社頭古松 南山秋月 松林山晚鐘 千代丸夜雨
高瀬落鴈 今古賀夕照 遠賀川白帆 橋山積雪

注 松林山とは行満寺のことである。社頭の古松は今はない。



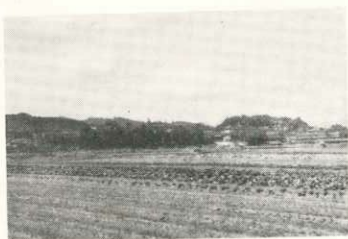
今泉神社

城 の 越 遺 跡 (大字別府)

高家城の越に往年土饅頭のような草原山があった。明治41年室木線布設の際之を切崩したところ古銭、刀剣、人骨などを発見したという。組織的な調査は、昭和27年に九州大学の鏡山教授により、又33年には明治大学の杉原社介教授によって、弥生式土器文化総合研究特別委員会の事業として行われた。

断面からは立屋敷土器、下伊田式土器、城の越土器、須久式土器、土師器、須恵器等と共に、土器以外の遺物として石鏃、石斧、砥石、石鐘、大型石庖丁、弓箭状異形骨製品、その他の骨製品が数多く出土している。

城の越遺跡



出 土 品

柴田直敏翁記念碑 (大字広渡)

翁は弘化四年広渡に生れ明治22年5月43才で島門村初代村長に就任した。改修前の遠賀川は明治24年に大洪水を起し、疲弊の極に喘いでいた村の建て直しに精力的な努力を続け、村長退職後も郡会議員或いは郡農会議員として水害復旧或いは荒廃した農地の改革や耕地整理を促進せしめた功績は偉大である。記念碑は大正7年翁71才の時建立されたが、数多い村の自治功勞の代表的人物の一人である。



柴田直敏翁記念碑除幕式



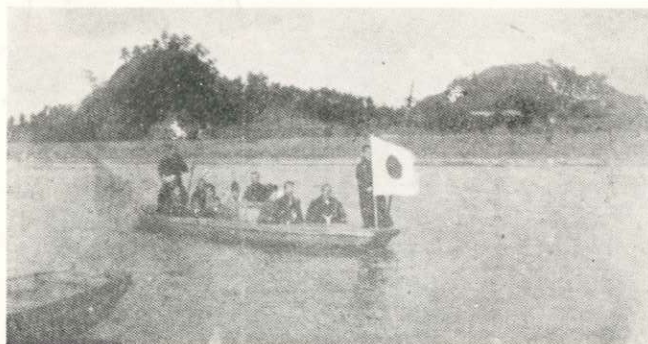
神田川記念碑

神田川記念碑 (大字老良)

寛政年間に島津村の与十郎等が相謀って、樋間及び砂腰を垣生の塩田に設けた。これによつて20余町歩の水田が漸く旱害を免れるようになった。正に当時の一大事業であつた。後年八幡製鉄がこの遠賀川から工業用水を取水するようになり、神田川を24町約2400m余り延長し昭和5年に現在の神田川が開通したものである。

又、西川が鉍毒水害によって灌漑不能となつたので、西川関係の利水地域が大きく神田川に依存するようになり、大正4年当時既に慣行として約600町歩の数字が記録されていた（島津、広渡、鬼津、尾崎、別府、今古賀、木守、浅木）。今では、畑池灌漑用水にも利用され、園芸の振興にも大きく寄与しており、山田川用水と共に、遠賀村水利の命脈である。

これを記念して昭和9年に老良に建立したものである。



往時の遠賀川渡し風景

遠賀川の渡し風景 (大字広渡)

旧遠賀郡十二渡しの一つが、広渡一えぶりの渡しであった。特にここは、県道を結ぶ重要な渡船で、少々のことでは欠航出来なかった。

この写真は、新船就航の際の記念に、村の駐在巡査や村代表者が紋服姿で乗船した時のもので、謂わば進水式である。

添田寿一翁記念碑 (大字老良)*

元治元年8月19日老良に生れる、東京帝国大学政治経済学部を修め
明治17年に旧藩主黒田長成に従行して英独に3年間留学する。

後大蔵省に入り大蔵次官となり、各種銀行法の制定と実施に尽した。
台湾銀行頭取、日本興業銀行総裁、鉄道院総裁となり、勲四等正一位
に叙せられる。又、帝国大学学習院高等商業学校等の教授を歴任した。
老良小学校の建立者である。



添田寿一翁記念碑



千代丸城趾

千代丸城跡 (大字別府)

別府千代丸の山上にあつた。今せその跡を認められる。小早川隆景
が筑前を所領するに至り、安増甚左エ門に命じて東筑前要害として築
城したものである。隆景の養子秀秋の代になつて国領を没収された外
には、別に同城として伝わるものがない。



土地改良記念碑

浅木土地改良記念碑 (大字浅木)

大正10年に浅木で107町7反3畝に亘る土地改良事業が行われたのを記念して建立
されたものである。代表者は有吉又一氏である。

貴船神社 (大字鬼津)

鬼津字矢倉にある貴船神社境内に、鬼津の6姓と称して6つの同社が祀られてい
る。即ち二村民の社と、松尾氏の社、秦氏の
社、井ノ口氏の社、又西の口にあつた太田氏
の社と、竹森氏の社を合祀したものである。
氏毎に祭る氏神の古い姿が残っているもので
あるという。



首塚

首塚 (大字尾崎)

尾崎城の越、その他の山の八合目あたりに大小の石が無数にある。首塚と伝え
られている。由来は定かでないが、或いは宗像戦争の際、大友宗麟に攻められ自
害した麻生の将士の供養塔ではないかと想像されるのである。

町制施行記念町勢要覧

遠 賀 町 役 場

昭和 39 年 4 月 1 日 印刷

昭和 39 年 4 月 1 日 発行

発 行 遠 賀 町 役 場

福岡県遠賀郡遠賀町今古賀

電話㊟0646 遠賀川1

編 集 遠賀町総務課庶務文書係

印 刷 株式会社 共立印刷所

電 話 ㊟ 5 0 5 2
